NEWS RELEASE

2013年5月09日
コベルコ建機株式会社

コベルコ建機 2013年3月期 決算概要

【2012年度の建設機械業界の概況と決算データ】

国内の建設機械市場（国内は年度）は、東日本大震災の復興向けの需要や、大型補正予算を背景にした公共建設投資が堅調で、主にレンタル会社向けを中心に伸張しました。震災復興地域ではミニショベル需要が旺盛になってきており、復興工事が徐々に生活に密着した工事に移行しながら好調に推移しました。油圧ショベルの2012年度の総需要は重機ショベルで前年比2割強、ミニショベルで前年比3割弱増加しました。

海外の建設機械市場（海外は暦年）では、世界最大の油圧ショベル市場である中国市場が、景気後退の影響で低調に推移しました。その結果、中国の油圧ショベルの総需要は前年比で4割減少しました。東南アジア諸国は資源関連の需要が低調に推移したものの、全体としてはインフラ整備など底堅い需要に支えられ、東南アジアの総需要は前年比で1割強増加しました。米国市場も好調に推移し前年比で3割増加しました。金融危機の影響が尾を引く欧州市場は、依然として不透明感が強い状態が続いていますが、下げ止まりの傾向を示し前年比微増に転じました。

世界の総需要を概括すると、重機ショベルで24万台となり前年比減少、ミニショベルで12万台となり、前年比微増となりました。

コベルコ建機グループは、前中期経営計画<2010～2012年度>の総仕上げとして、昨年4月に、グループ全体の生産および開発の最適化を担ったグローバルエンジニアリングセンター（以下：GEC）をスタートさせ、5月には従来の祇園工場から広島市内の五日市地区に重機ショベルの生産拠点を移転しました。国内需要に応える為、フル生産を続けながら、ほぼ1年かけて組立ラインから製缶ラインまで製造ラインの移管を完了させ、品質向上、生産性向上、コスト競争力強化への道筋をつけることが出来ました。

新製品に関しては、20トン級ハイブリッド油圧ショベル『SK200H』を開発し、2012年10月1日より販売を開始しました。また新排ガス規制適合、中・大型油圧ショベルに関しても順次販売を開始する目処をつけました。

中国市場の低迷の長期化、急激な為替変動などがありましたが、グループ一丸となった取り組みにより、2013年3月期（2012年4月～2013年3月）の業績は、以下の通りとなりました。

<2013年3月期の実績>

{単位：百万円、（ ）内は前年度比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	当期（2012年度）	267,821 (▲12.8%)	12,675 (▲45.4%)	6,852 (▲70.0%)	2,657 (▲40.8%)
	前期（2011年度）	307,159	23,200	22,865	4,488

連結の売上高は、国内事業が1,070億円（前年比+8.0%）、海外事業が1,607億円（前年比▲22.7%）、連結売上高の海外比率は60.0%となり、連結で2年続けて海外の売上比率が減少しました。

（過去2カ年の海外売上高比率10年：73.1%、11年：67.7%）

【2012年度のコベルコ建機の事業別状況、及び足下の状況】

■ 国内事業

2012年度の国内におけるコベルコ建機グループの油圧ショベル販売台数は、震災復興需要や、全国的に油圧ショベルの設備投資意欲が活発化したことにより、重機ショベルは前年比3割強、ミニショベルは5割、それぞれ市場の伸び率以上に増加しました。引き続き、国内の震災復興需要には最優先で対応してまいります。

中古車市場は、稼働機のストック調整が進んだことによる中古機の供給不足や、最大の輸出先である中国市場の変調、円高による輸出環境の悪化により低調に推移しました。

重機ショベルを生産している五日市新工場は昨年5月に開業し、国内の旺盛な需要に応える為、フル生産体制で対応しながら移管作業を続け本年1月に移管工事を完了しました。ミニショベルを生産している大垣工場でも、生産性向上に向け順次工場変革を進めており、今後1年をかけ、仕上げの活動を展開していきます。国内の2工場を世界最高水準の生産性とコスト競争力を持った生産拠点にしていくと共に、グローバルな開発・生産体制の司令塔として、GECも活動を拡充させていきます。

■ 中国事業

2012年の重機・ミニ合わせた油圧ショベルの総需要は約10万台（前年17万台）になり前年比約4割減となりました。2011年から続いた金融引き締めをきっかけに本格的な景気後退となり、外資系メーカーも中国メーカーも共に前年比マイナスとなりました。弊社グループは、ミニショベルが前年比増と健闘したものの、市場全体の低下の影響を受け低調に推移しました。

中国の油圧ショベル需要がいつ頃回復するかは不透明ですが、足下は下げ止まってきており、徐々に明るい兆しが出てくると想定されます。所得格差是正に向けた内陸部や農村部の開発、都市部においても下水や通信インフラなど、各分野での開発が進展することなどから、成長スピードは従来よりも安定的に推移すると想定されます。

■ 海外事業（中国事業を除く）

中国を除く海外においてはAPACエリアを中心とした事業展開に取り組みました。また2002年1月から10年間、CNH Global N.V.社と全世界包括提携関係にありましたが、2012年12月末日をもって提携を解消し、米国、欧州でのコベルコ建機独自の事業活動を10年ぶりに再開しました。米国、欧州では現在、着々と流通網の整備を展開しています。10年ぶりに再進出した北米、欧州の事業展開を軌道に乗せていくことが当面の経営課題となります。

APACエリアのうち、東南アジア地域は、前半までは順調な成長を続けていましたが、後半に入り鉱山需要の低迷などにより需要が鈍化しました。通年の東南アジア地域の総需要は油圧ショベル全体で2万5000台となり、前年比1割程度の需要増加となりました。主な地域をみますと、タイは水害復興需要や順調な経済成長に伴い総需要が前年比8割増加、当社も総需要の伸びと同じように8割販売が増加しました。インドネシアは前半は好調でしたが、資源分野の低迷から後半急速に景気後退し、通年では前年比微減となりました。弊社も後半鈍化したものの不振の鉱山向け比率が低く、パームヤシ分野や一般土木工事向けが多いこともあり販売台数は、前年比4割強増加しました。今後も多少の変動はあるものの東南アジア地域は順調に成長軌道を歩むものと期待しています。

東南アジア地域の生産拠点であるタイ現地法人『Thai Kobelco Construction Machinery Ltd. (タイ コベルコ コンストラクション マシナリー)』では、順調に拡大する東南アジアの需要に対応するため上期中に生産能力を年間5,500台体制として供給力不足を解消した効果もあり、東南アジア全体の販売シェアは前年比6.7%向上しました。

インドは景気後退の影響を受け総需要は7%ほど減少しました。マーケット開拓の途上では有りますが、ハイエンド市場を対象に最新鋭機を販売する弊社のインド現地法人『Kobelco Construction Equipment India Pvt.Ltd. (コベルコ コンストラクション イクイブメント インディア)』は、販売台数が6%ほど増加し、景気後退の影響を最小限にとどめました。

【2013年度の総需要予想、重点課題、2013年度通期見通しについて】

＜2013年度 総需要予想＞

国内は、東日本大震災の本格復興需要や、消費税増税前の前倒し需要、更にアベノミクス効果への期待感による投資意欲の改善などが旺盛で、レンタル会社向けなどを中心に引き続き堅調に推移すると予想しています。

世界市場の過半を占める中国市場は、鉱山地帯の大型ショベルの動きが鈍いものの、通常の土木工事や、都市部の工事は活発化しており、中・小型のショベル需要は底堅く推移すると予想しています。中国市場は、景気後退局面から着実な安定成長路線にシフトしていくと想定しています。

中国を除くアジア圏では、自立的成長を続ける東南アジア諸国がある一方で、欧州の景気の低迷や中国の景気減速の影響を受ける国もあり、また政局の混乱やインフレ対応で景気が鈍化する国があるなどまだら模様であります。基本的には自立的な成長過程にある為、安定的な成長を続けると想定しています。

米国は、シェールガスなど新エネルギー関連工事が拡大している他、住宅着工件数も回復し、順調に回復していくと想定しています。欧州は、緊迫した金融危機から脱したものの債務問題は依然危険を抱えており、各国の緊縮財政政策が継続される為、本格回復はもう少し先になると想定しています。

＜2013年度の重点課題＞

事業環境の変化に追従できる柔軟で強靱な経営を推進し課題に取り組んでいく。

- ◎10年ぶりに再進出する欧米事業に注力。中でも米州を最優先で販売網整備を進める。
- ◎GECの司令塔機能の強化と、国内外の生産現場での生産性向上・コストダウン追及。
- ◎ストック事業基盤強化に向けて、戦略部品の設定、部品拡販に向けた体制整備を行なう。
- ◎ITデータ活用によるサービス強化。予防保全を見据えたサービス体制整備に取り組む。

＜2013年度通期の見通し＞

2013年の全体感は上記の通りです。中国の回復タイミング、欧州経済の回復時期など不透明感もあるものの、国内や東南アジア諸国が堅調を持続し、北米地域も需要が増加してくることから、全体としては堅調に推移すると予想されます。

2013年度の通期見通しは下記のように予想しています。

{単位：百万円、（ ）内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2013年度 通期連結見通し	307,000 (+14.6%)	18,000 (+42.0%)	12,000 (+75.1%)	7,000 (+163.5%)
当期連結実績	267,821	12,675	6,852	2,657

(2013年度通期における為替レート前提： 1米ドル=95円、1ユーロ=120円)

*上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。

実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上

平成25年3月期 決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社	TEL: 03 (5789) 2111
代表者	代表取締役社長	藤岡 純
問合せ先責任者	取締役常務執行役員 企画管理部長	三木 健
親会社名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率: 96%)	
	神鋼商事株式会社 (当社株式の保有比率: 4%)	

1. 平成25年3月期の連結業績(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期	267,821	△ 12.8	12,675	△ 45.4	6,852	△ 70.0	2,657	△ 40.8
24年3月期	307,159	△ 1.9	23,200	△ 17.7	22,865	△ 13.1	4,488	△ 35.1

	1株当たり当期純利益	
	円	銭
25年3月期	8	30
24年3月期	14	02

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期	403,469	70,626	12.8
24年3月期	370,543	56,995	10.8

2. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
連結(通期)	307,000	14.6	18,000	42.0	12,000	75.1	7,000	163.5

*上記の予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであります。実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。